

1・2号機の廃止措置の状況などについて

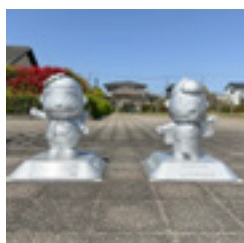
○令和6年12月より第3段階に入り商業軽水炉では国内初となる原子炉領域の解体に着手

- ・2号機の原子炉領域解体に向けて原子炉圧力容器の上蓋のボルトを取り外した。

○これまでの解体状況として

- ・1号機発電機等の解体
 - ・2号機復水器上部胴の解体
 - ・2号機圧力抑制プールの解体
- クリアランス物の再利用状況として

・一部クリアランス物を(株)木村鋳造所にて側溝用の蓋などに加工して、発電所敷地内で再利用している。また、市制20周年を記念して「なみまる」「ふうちゃん」の車止めに加工して市に寄贈した。さらにクリアランス制度の理解促進の一環として、常葉大学造形学部と協同でオブジェを制作し原子力館に展示している。



市立図書館前

中長期計画共創

特別委員会

令和7年3月17日に委員会を開催し、付託された第3次御前崎市総合計画基本構想について、総務部企画政策課から細部にわたり内容の説明を求め、慎重に審議した結果、本委員会としては原案のとおりに可決すべきものとして決定しました。

また、報告事項として、第2次御前崎市総合計画実施計画のうち、次の7つの主要事業について、関係部課長から説明を受けました。

1 ゼロカーボンシティの実現に向けて

(市民生活部環境課)

本市の限りある財源の中で地域課題と掛け合わせた脱炭素施策を検討し、計画へ反映させるとともに、官民連携した新たな取組を共創・推進していく。

2 オンデマンド交通について

(総務部企画政策課)

市内公共交通現状及び空白地域解消のため、自主運行バスの代替交通として、令和7年10月からA

I オンデマンド交通を導入した実証運行を実施し、令和9年度から本格運行を目指す。

3 御前崎市リノベーションまちづくり計画について

(建設経済部都市政策課)

これまで実施してきたまちづくりに「住みやすい、暮らしやすい、使いやすい」を考えたハード的まちづくりと、それに必要なソフト事業を一つにまとめ、各種計画の方向性を統一することで付加価値を付け、将来にわたり安全・安心な生活環境を実現するための計画を整備する。

4 子ども家庭センターについて

(健康福祉部子ども未来課)

こども未来課の体制を強化して、より一体的な支援を行うため、令和7年度より設置する。

5 県と連携した農業生産基盤整備について

(建設経済部農林水産課)

少ない担い手でも地域で農業を継続的に行うことができるよう、農地の利用集積、大区画化、農業用水路の改修などの農業生産基盤整備を行う。

6 御前崎クエストについて

(教育部社会教育課)

予測することが難しい自然環境の中で、仲間とともに様々な体験を行い、生きる力を養い、SNSやインターネットツールが多く普及した現代だからこそホンモノの経験を培い、これからの未来を生き抜く力を育てることを目的に、平成29年度から実施している。

7 サーフタウン構想について

(建設経済部商工観光課)

御前崎の資源を活かし、観光・ライフスタイル・地域活性化を含めた新しいビジョンを描くことで、持続可能なまちづくりを担う人材育成を実施していく。

御前崎市の目指すまちづくりの基本理念「挑戦」と「共創」

